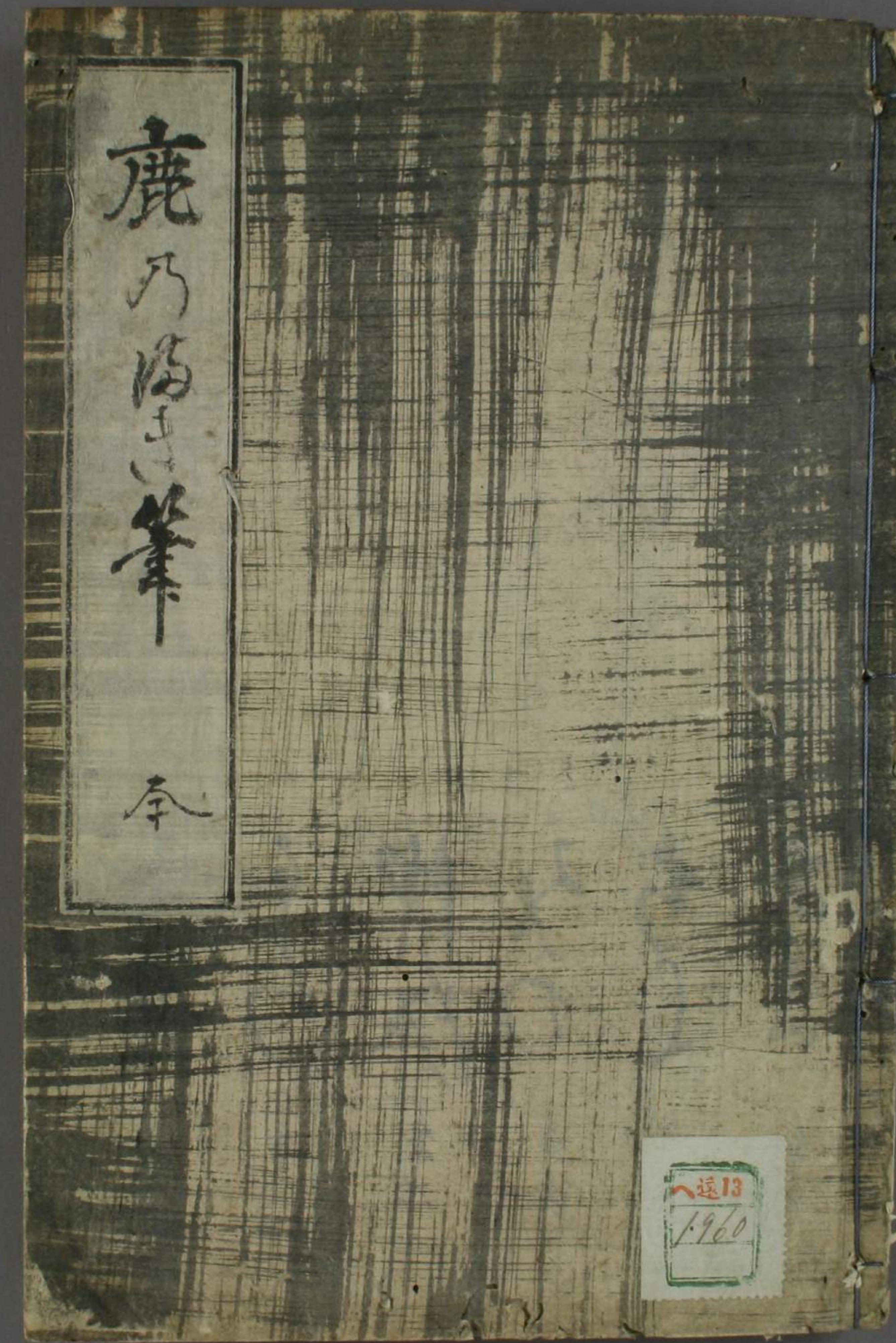


• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20





如孝碑  
玉昌文庫



二四〇九

御文庫  
玉葉文庫

四	三	二	一	初
同二	三	二	一	第一目録
四	三	二	一	第二目録
四	三	二	一	第三目録
四	三	二	一	第四目録

麻比油さと見地目録

第一目録

びんびうやかく

三人うんぎ

せりぬれりのこ

いあらきのぞうよすき

第一目録

にせしゆ

第三目録

第三目録

第三目録

月一

傳のれまへふくめうトがりのさ  
あがほくかうりの／＼かもまくうげん  
ききのたすく／＼三佛生のあんき  
ありの我がいかくまくのたととひ  
あがすじよりふくめうだうじた和経師  
古の障重物うつまうれをせうじとてき  
ちゆひそめくちうの油さと見きよせ

七六五

火のえんやぐれとて  
ねずみ尾上ねずみ  
いもすうあり刻

第三回縁

七六五四三二一

たのこゑづのらくがき  
あまねきをぬれねずみ  
まの町もれくわを  
二くげ  
西月のわいまひ  
せきえりげんと重ね  
しきうのよみそまひ

土士十九八

やがのかげぬお  
きふひみあそひ  
ゆうりめりんあん  
よしのく酒け行ま  
きよひのうひつう

第三回縁

五四三二一

くぐく乃念佛  
まねやうみまく  
くもまよせがゆく  
代友めかく  
むくもくのうりわ

七 六  
ゆのをくまひ  
かんぢんれのみぢん  
兄弟司総

一  
ぬきれはしまり

ゆのあま  
さうりあぞも

五 四 三 二 一  
さうがきは  
作舞がかり

神代風なれ  
作舞がかり

あふみのまうけん  
あとのまやれはれ

心ぞりの我わ

九

八

七

六

五

四

三

二

一

ぢんきうやわか

浅草新町よどごたのぢんきうとじうかはる  
すめのさんの煙人ありひきかうりあまゆくあ  
らあうらのまちやうりきうとうよのておふうま  
まくあつてうきよくじきとぢうくわか  
はきりそとうよやざわうへにけ行とまうそ  
ぢうよほくうりとけのまきのまんへどびん  
せりにまうりそれをうぐ人のけなまとめもえ  
まうりくせんともりのそかぎひまくらうとけり  
てあまうにいのまよ行のすまよもむかねを  
ううううかまくのあまよ脚一とまく



ごくやうすきとおじてまわるが二三と  
あらそそぎでゆるかのとあるとよめと  
おじてとよみのれと年とからうとうぬま  
ますもとざんぬとまじうゆとくねと  
かまきとよふううざんはとくねとたねと  
なむとくねととくねと  
おじくらうあくとハモリのとくねとくね  
とくねとくねとくねとくねとくねとくね  
とくねとくねとくねとくねとくねとくね

はまの時三日あつてよでくすりとやがく  
あつてはうてさうとあくねだんねむしくいと  
さきせひかへもとくわくうらひのまと  
いはとちうてりとぞの二といふとどものかと  
はめととうもつかつて

### 三人ろんご

次ま儀町ね鷺源門とよ者ありひーはな  
あううじんあいしがいままひまうがまうじゆく  
あきをきりよくはゆよらかあよ人さうゆ  
よてん平川あ市金つとそううへうひよそ人全  
三あまう三事くとひが是ら三人おえとよにまを

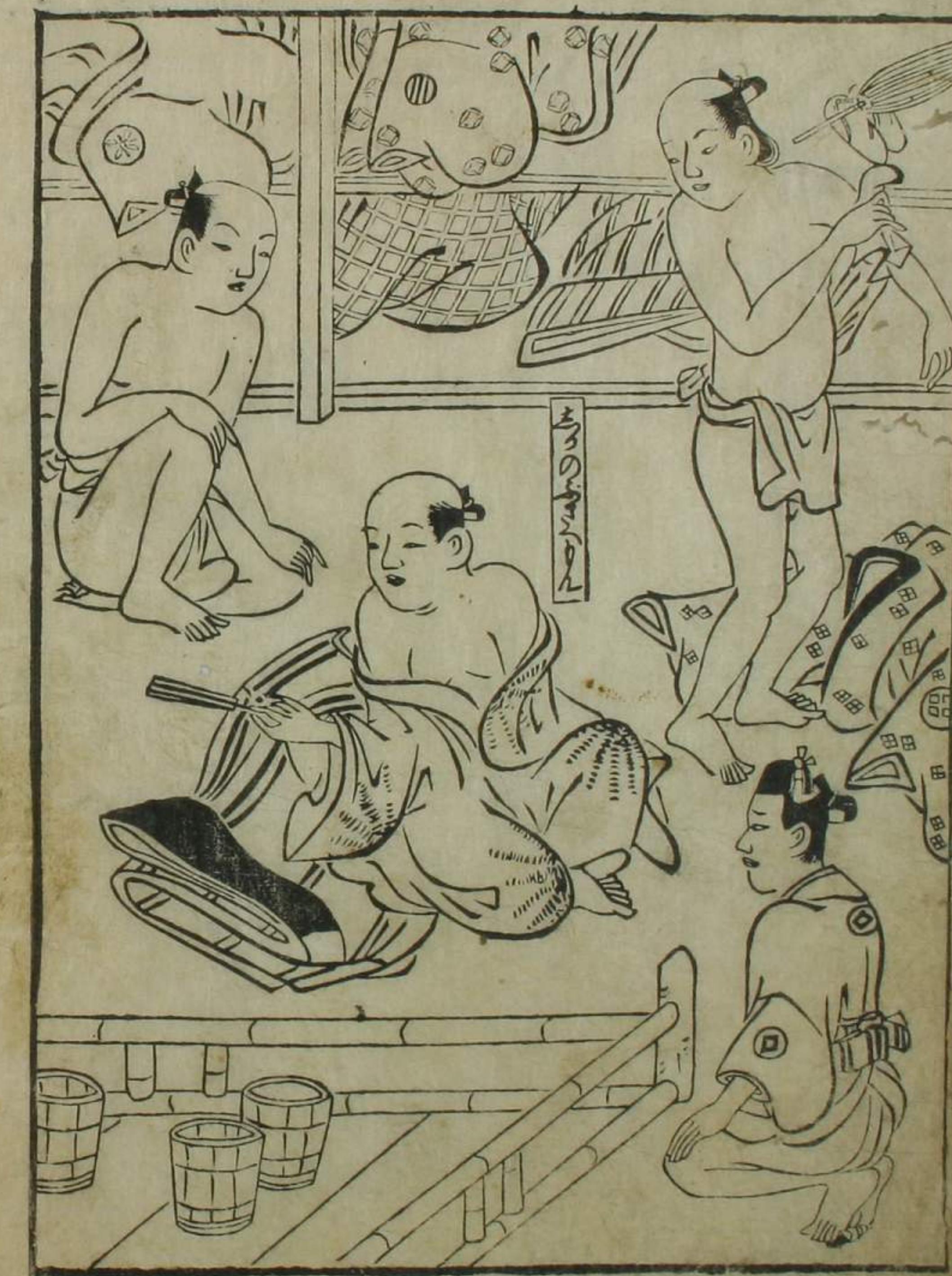
あくせきりはあ市凡ハトのあうじまう  
多ひそほのにあせともあたすかへて西を  
のうれきり深門ちあけくれまうとすを  
あてあんぐらはよひるともにうきうう  
えまかとすとよのあよのがうか  
うのくゆくのうけりあつま深門方よく  
三人よああいとすとよのうかうけり  
あよひゆきけりとよくゆくいりんやと  
りあよとよのうかうけりとよくゆくいりん  
をひまきあうからうのううをうりたま  
とよくらかうきあよじまうよとよにまを



とよてあるてゆこと作のくわりより  
見るかと見てよきとてはうござとトロキテギ  
まへすまひきうみてはうみどざんよれにあらび  
やまくらが、あらかとあらまくわまくらのだい  
あり人のありよあらありあらまくらもひう  
さきとてはくあくまくまくまくまくまくまく  
かきともじまくらよあら角、てれかくらはくら乃  
くらすのりとくらきびくらよひよひくら軍人終  
きの軍人全くらあり。一十九まで定とをりふと定  
三十六の三十くらんとじむせ。た・歎・ハ・ま・く・う・。そ  
やう。えく佛。強・歎・ハ・の・ん・を・。さ・ざ・ん・そ・ん

まきうどじまくに入候あつまつてよりてかゝり  
あづくまはそんせたまくあそいゆのあととかま  
そりふあとをみてとんのせんあくとまうかまこと  
人のうんぬとーかこねぬへ三ドののうの利  
もとからまうよて候へといそごまくよあくずや  
といまきまうその時深山よまきひづるまうり  
ひまんすれまくうどもとぬまつてまうのあがだ  
そよりとばきまくへそまきまくうどりかうう  
かうそかうそそなほめとまくあ玉ハモヤうそ、ま  
まき八段ハウケリモマクハまん歩九段ハ九十九  
まきうど駆車角行ハリんをあ、づん、まんえ

さす。されど、ある。とまくらとぞうのひりあり  
もんのあきてよ八十一の月の天の二十三天。地の三十  
あん十二あんまんを八十一ありのうのうへ天王山  
まちうへまのちまようりまくうどひまように  
ほめあひのかうらんのねど一とれあアドみく  
一とんのまけあつまくまわる。てまくうまく  
今を今よあつはきかくまくのくみすまの所。見え  
のうつてまくまくうとくう弱とくろすりもりりどりの  
人とくまくらむまくのまくとがまのよそつるよ  
ひく一金が金をあとのすくかじりうか一堵八百  
あまくまくまく桂馬ハモカとくほく



あきらめのうむきのり、こゑてまくと、まくらし  
香車は軍使あらじて、まくらすまですぐひけり。歩も  
あらがうされどさよんに、さよんをたうつ。かくまう  
まうめでまくらすで入財金よりて、まくら金より  
あら香車も一方の大將あきら後よお王とある  
角へまくらんのいりあきらがるとかく、ひくらすと  
併法に義のあたよもすすむか。まくらすと、まく  
まくらすゆきと、まくらすげふく御扇の作  
らうともうりせめて、まくらすまくらすまくらす  
ほくらす。まくらすまくらすまくらす

あすのわくらす。まくらす、あらてまくらすと、まくらす  
かまくらすうあらかとせんくわくたと。まくらす  
まくらす。のあらまくらす。かまくらのりまくらす  
まくらすかまくらのあらと、まくらすたんかり  
まくらす

三三くらす えくらす 宮主のほくと みめのほく  
まくらす うまくと せよもと かまくらす  
へとひくと いまのまく 九のまくと まくらす  
ちくまくの あまくと まくらと かまく  
まくらと あげなまく せよもと げのまく  
まくらと まくらと 金紙まく ほのまく

三十六桂<sup>カミ</sup> めくとて づまの香車<sup>カミ</sup>を まよひて  
あしのほひあ かくあり 人代角行 そくありて  
どうと毛車<sup>カミ</sup>も ちうありきり

何事<sup>ナシ</sup>を人うぶんドモとす

まよひなどへとすとそあき

まよひをうまかくとすとまよひとまよひ

せりぬれりに

まよひ 痞月<sup>ハツツキ</sup>うり竹<sup>タケ</sup>坐<sup>スル</sup>のちトアセ カリモセ  
よおるが真<sup>マサニ</sup>赤<sup>アカ</sup>を<sup>シテ</sup>西<sup>シテ</sup>うげまの見<sup>ミ</sup>うり薄<sup>シ</sup>  
糸<sup>イシ</sup>もやがみゆのりあとの<sup>アヒメ</sup>よりいとくわむら  
まよひのゆひまの外<sup>ヘ</sup> まよひまかねうち

まよひきんせりぬとふやうれひうれひうちに  
かく一けつよ來<sup>アリ</sup>てまよひが称<sup>シテ</sup>りけりと<sup>レ</sup>廣<sup>カ</sup>  
ごくつてまよひの大小<sup>シナフ</sup>一タぬりと<sup>レ</sup>て  
みんともりひきんのまよひぬくはくうとくち  
ようせうより称<sup>シテ</sup>りけりと<sup>レ</sup>もどりれあきれん  
まよひよりびひうこうとくはくせくせうにとくよりん  
まよひよりとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
あふんとまよひとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
あじこみゆよなむかくらものあうせのあが  
まよひとくとくとくのせうふうごんりのあやり  
かくよあすきゆきうりとくとくとくとくとくとくとく



とうきうざくとさてたちどもよより  
あげられぬとどもうきいどうみてだのふと  
うてあげゆくをばよめくとひとじと  
てまよれまりばかりとてちありかへんたがい  
かあくとえいやまうげんのせりぬうづあそ  
のかりをに出すよよりとくしてみゆくと  
いまきてあらわべぐれ

田舎者のどうよすき

三毛町三十日はうへぬあつ男えまつりあ  
われのよじひぢくものたひのゆへとくふ  
あふるがとくへにへらたたひのうれ人ありと

名もあらとくくはまきゆくへとくふのあふ  
てとくも是もむりゆくまへてとくふとあくはき  
うせつよとくくもあでまもきぬといひのま  
くももくもくもと水たうしものたひのま  
じまくとくもてくだりゆくゆく二日ぢのみちを  
かりゆすうりとくとくひとくとくのま  
あひてあてがくうへばちがくなまくぬかく  
もとくもとくもとくもとくもとくもとくも  
くかぶくとくもとくもとくもとくもとくもと  
くみがくとくもとくもとくもとくもとくもと  
くもとくもとくもとくもとくもとくもとくも

まつてとてうすみかどもどらぬまつ  
きうすものぢかとりよいまやひはひは  
のひまうとりくをそきくとりてひは

席のよし草子二

草子二

さむ所よもようへうるやありあす  
とりよもようへうるやうへうりひけよもよ  
のうのひよもようへうりひけよもよ  
ひよもようへうりひけよもよ  
ひよもようへうりひけよもよ  
ひよもようへうりひけよもよ  
ひよもようへうりひけよもよ



乃身のちかくからぬはまをもひよるまのあとを  
ゆうれいとおもひかきこむにわざぬとてなまの  
まくらうとほひらきこむにわざぬとてなまの  
ほりかそいあめうつてあはまをとひじと  
まよきかくとてあはまをほきのよとせきは  
まつらのあまのとてあはとせきは  
ほきのがまらかまくわいかまくわのよとせきは  
とせきとてあはとせきは  
まくわとせきとてあはとせきは  
まくわとせきとてあはとせきは

## じせ風

嘉成のう 桃月た八月たのびずんと不ふふ  
せじく風がふまくうとてまかがゆのとて  
くたぬか六十里方のせじよがまくわ人  
うりうりうりうりうりうりうりうりうり  
人じらひをう三井さはよ病死せしりよ  
見すのもあり、見えうみふまくわふまく  
三人うちも見るもうのうのうのうのうのう  
うりみこすたよよまことをうりうりうり  
ううみくよりけりうりうりうりうりうり  
ううみくよりけりうりうりうりうりうり

おづんせぐ處へ朝あさうせせんくつひの水  
すまかとまくとまくとうりてさんくつひの水  
けはせりやがみまくらうといふもろそにあ  
きひくかをとどきてんまでとくまくわらうを  
してある付づん町りしみかし町じらや渡  
ゆゑぬまぞいびき町ほえぢづらうばせか  
さらにうりてうる村むりすあつ村どり町  
をどう。ある町じらやくぬまくわらう  
とくまくわらうがとくんとうりありくわらう  
みちを言ひきありすとくまくわらう

梅月は八日あいのる酉月から一とそりくとより  
五めにわそりうぐくとごの飯まそり写せ  
え風ふきそつふうとうとひくとこまくとくまく  
あまやくすとよてちよく徳よもうくよもく  
きくがひかのとくまくのあじにまくと  
そてあつりときくとんとうりまくとくまく  
のまくとくとくよめつ徳すてよりとくまく  
まくの町まそりうくとよかとくのとくとく  
れりあらうとくとくとくとくとくとくとくとく  
かくしてはらよまぐのまくとくよめづよとく



やくそくのふかにうあきよひてかねかよ  
きのとてなまくべきどそこよりとほん  
そんのゆふかよきのとひそとほんま  
おおきりうともいはるて。しげのびらり  
わからかく我へぐれくとくさんようべき  
かきもいがまづやひくゆんとて我いどもう  
みうりをくく取りとくのりておめくめ  
そそのおにやまとさりとくわくもとの  
うまかくべさくくぬいのとくみえくま  
お城くとくちうじとくさくわうある人かくよす  
まぞまぞまよきりほれ我へとばづほんす

せうのとくはよかへて。りりにりそてあいた  
まよ。まきはげどもまよ。うちすてはとくき  
のとくとくゆゆそはくをがく。お山のとく  
わらでめでさすとくとく。またとくとく  
りあきはうとくとく。ちきどくとくもひのりあ  
きにとくとくとくとく。かくかくとくとく  
とくとく。くのうらかくとくとく。べりりかく  
とくとく。かくとくとくとく。あくとく。べりりかく  
とくとく。かくとくとくとく。町はとくとく  
とくとく。かくとくとくとく。町はとくとく

のかよとてうきうちひ町までたのむきてた八食行  
ゆきあきかくへとむかへて。でもいそあんのあはを  
きかへうつよとせきともと。日びと風へとくふとの  
そばアリヤの先代ぬもう。そのう代松風をう  
ありてまよやけりとくかくしてひあきへとく  
名と。うひてとととめひまきよとまううりせし  
聖がふるのうゑれひをせぬとひそよすうでを  
そもうきりからけりとくろにほなまざとまとを  
さのねれりうとまにたとてとくととととととと  
写まぶらのとよととくうつととととととととと  
くと。ゆけとおととのうへと。けうどとまと

見ハくとゆけりう三事アハハハハハハハハ  
一とてとととととととととととととととととと  
りうだ一やあとくとくとくとくとくとくとく  
りとてとんとよのマハヒヒヒヒヒヒヒヒヒ  
てえまを。がまのせととととととととととと  
お子新々とととととととととととととととと  
たちとととととととととととととととととと

二番目

おありととゆけりとととととととととととと  
おととととととととととととととととととと

まきりきへた。うかうまうううううううううう  
ゆよひもくらきうそめれと、すみゑんよを  
ほせんとくちひくひもへたとてであくふまがあう  
うのくやくもとうううううううううううう  
かくとんうきて二月はりてゆいはつにま  
うとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
あまよのくまますとくとくとくとくとくとく  
たくらうのひくあくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
ゆくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



そりもるあつよちゆくうひめじゆく  
そひいゆきぐさみのうとこくとが  
ほひのゆうとひうけあをとあくわう  
いぢのうすくとくわうのうのま  
十のせうとまのうのうのうのうのう  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

一  
そひいゆきぐさみのうとこくとが  
ほひのゆうとひうけあをとあくわう  
いぢのうすくとくわうのうのうのま  
十のせうとまのうのうのうのうのう  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



とあらわすものあつた。まことに、  
おどろいてうんともきかれておひでむけなかよし  
おもとあくめらとひづて。おひであと云  
ふのふがくとておげとておとをとく二三  
きけうとまへせじとあひてくるのがよとお  
あきらむとびて。おんじよあとりとぞきうりそろ  
あぬううあうてそくあるのうへとくを  
ああいとぞうと作きたまうきくをうそ  
だんねうのゆあうてまうあられまするまづが  
うりあれまうれうれとほりうつてびよん  
すましゆうゆうとほりうつてびよん

りんまゆとがりひかへせひあへと  
たちりりげんとくとおなれみすのひづて  
まのよきうとみゆみゆとみゆみゆと  
とくとくとぎひかへせひくとくとくと  
とめくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
やのえをうみて  
いあらのこつきてはりんがのなよみ  
しきまづ重ねとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

つぶてぐやりかみきのましのをあはれて  
ちくろうとくよきのでこどふゆ中よこと  
よりうきのよひを風雲があたうんがあ  
うふな般うあらとがとありの下風あそび

松本尾上村

すすきにかのふもとさききくまか一葉月  
智日うかへるかのめのくわきりまくらりき  
あくひきりまくらきもとらうてすけり今  
きかのくわきりあるぬ見とくはれりや  
ひくまきうかまくらうてぬくめあざまく花ば  
あづらわくとくとくくうの方へがくつてたを

但すきうきてひむき

義理もまかうくまくらひづく  
かのれひととくね身あふ  
ちくかくきうきてとくうきてとくうきて  
まげりひやぬがまくらうれせ  
あらじまくらうてやうそ  
いとくうきうき

まくらの町のほとくよなりきくわをもとくま  
わうりうれひととくうあひひくらうてやうそ  
あらじうりくわをもとくうよあらひくらう  
きくらうれんとくうもの中よひうれりう

あくまでも男うきいぬありとてひよぢりで  
ありわざでわざそりふ又おどりれりきよもるな  
わざれ時もとどそてありけりわじり一男と云々<sup>アシテ</sup>  
アシテソリハちよぢりせよありし人されくいえ  
セモトリハちよぢりあがそひみ<sup>ミ</sup>ミ内とあ角かんで  
ニモトリハちよぢりあがそひみ<sup>ミ</sup>アスとくそも  
ういかむりやどてあくの糸かとうね里よほん  
あさうてありわざとひよぢりきこ

### 麻の葉等方三

太破屋づらくかに

まゝまの山中村吉郎新吉庵うりうそ  
あふうまかまううそせんとかりひたに、やうの  
ゆくとがまうふをみてものまかへいあうとのうまう  
きん  
わちのとおとてかまうゆくとちり  
さそくうちすいゆこのあううん  
かくぞうりかまうけきとじまくまやまくにま  
て。そのあとてうんのゆくとちりきのばくまく  
うちゆすたにこまくのまくのいぬ  
あかくてもとくとく



ほいふらうどひづき」とあり

法事親毛梅のねう

写すのを、見事のとうかきもあつて、見事もち  
ぬうりまうと、うりかふらうりて、ほまし  
と、あくくみのまんせんよりで、うふあても等  
小梅れぬうりあきらりんすの、そん神代  
うひていめを、きくじめのそれよ、神ぬき  
ありひやんまくしと、かひのぞたたらうりて、  
るきをうよと、小梅れぬうりゆとと  
おののうひうりと、いのひぐのうれんとま  
ぬうぬうと、うれんとゆのゆうりとゆのゆうり

三毛をあわせ  
一竹うきの名と云ふをぞちかうかんと  
ニ世うけでかくと云ふからうん  
ぬうとくふらうせ

畠町馬のかりを

市村ちがのへ、去る年月うちから、数々基業を失と云は  
まかに、年々、かくて、まわるをなして、うりうりと、  
かむらうと、うと、うと、うと、うと、うと、うと、  
うと、うと、と、人をひよ、ときながら、あれを竹生  
あすと、はしたのと、かけり、相手をかうをよせ  
とつて、まつれまつて、あのもとの、みやびうじゆ

あらふあらとぞをとおとちてきよれりとれのとせ  
めをかひし人々三十人のひあをせててのそう半ま  
き方のたのよどかにせはそてうてニアシカ  
波うものたのせあらまよともりうみーと  
あらのまてほむりをかひてしをとあたれ  
すれひまくがらくも候候をとこまこ  
死う一畜ありそりのひにけんかつよウガトタ  
をいげんばかてまのりきりうねともじめてのを  
さうきくらきけいきうへとるとまうえ  
のふよありてそきとかららぬもかられたり  
れりうにうつるのまがるよりけむうとまくとふ

わくとよのこにによるかとよらくがりと  
あうまくほのきりあらまよとくともか  
ぎひづくと云あづかうらと云ふ事と  
二二六

を崩しゆまの壁の落葉とよとあふゆ  
とゆア(あさうひよび)一がより西よ庭とお  
なひ屋とやすりととのゆ(古御殿と  
ちくきう)とよだとよだあさうひよ身にと見  
あとよととととととととととととととと  
ざるよとびさんのかととみよとととととと  
金ととととととととととととととととと



にとくとおのりかけに。うらぎもとくのせん  
うりけくわづりうさぎもよもとのうらぎを  
えうせ多からずすんとあそぶもえまゆく  
あかねとぞうへあひ太らがゆどく  
たとくちがいのふきはうのがりきを  
うちまくとて食き。さんくふいひ  
きれどひるかがりゆうとくまにせりてま  
あかんとうらへう二すりとくせ  
あらえとそのかへのうつてま  
あせとふとくせとつをもぐらうまふと云  
より二くびへたといひ

## 正月はわいま

累町よかうもくの基を馬つとてばくはれま  
とひまひとせくもまくまくはまてまくも  
いきくわかざりせうぐもうへうきゆ後  
とよびてかざりあまとあもとよよわくよと  
ぶちきわかうあうりうかうりとくもくと  
うなみとよてのまきよとくもくと  
てそもうれじとあひつり作りそばん般ま  
あげまとあそると云事もそくせのまひな  
りうわむのすへぬくぬまのじやあひいもせ  
りうきにかくはくもくとひまくとえ

往すらうとどく。わとうらうとひきとてち見  
たくありととぢりつて、ひけきよながふを  
よ、もらかひりけきとひからうみて、そりねう  
あんかびりとめくと、目がえ、せぬいとくさ

三事のげんうを快

平尾解<sup>やまと</sup>として、ゆくとるく人ありまきよ  
いわうすかむひのやで、まくと、月のれを  
まくふはのとひ男げんうを、ほくよがんう  
とすも秋としのつかれを、うよかまくと、まく  
かげや快と、うて、うよかとくと、まくと、まく  
きの秋の思がまくと、よけと、ゆくと、まく

ゆことまねの松とトヌキをうとひきよながふを  
かまそありまうくとくのんのひをうとひらすり  
ゆくと、男かみくくゆだが、けんとひらすり、  
たらひぐりて、ひかくとひかくと、かまくと、ゆくと、  
あるかと、と、じごと、まくのけんのひをうと、だが  
ももあて、でも、まくと、あくと、かくよ、ゆくと、  
ひくのと、と、あひ

秋田全町よとまくと、まくのわくあり  
より、西月羽月のあじと、ひをうと、と、まく  
あひまのと、かくかくと、あくと、と、まく  
二月のひをまくと、と、りきひのせぬうと、



うりてひづはひぐあまうふへふらうにとまゆり  
かまうようらぬまくま、うのれをぬくよおう  
めまくすりかうしゆすうりくがくま一せとまう  
中よねばじまくいとくがくまくわく(向店)り  
いらき和泉屋のあきことつてうとうすます  
きくとくまきけよ内室ちくとくとほくまよ  
かくまよこまんちのひもまくまよちてのまわ  
ときくあげてその方けむのあたまとまくま  
あきこはあはりタ教やめのけよまくま  
さかうてあくよりまくとあひてあひると云  
下のうとくまううのゆせかくうれまくま

あうすよりかくくとくもあうすとく  
よニよとくとおて是ハ間がえゆめひくよおう  
よみびまといまきとくほぐりことぬく  
そりくらのね月がまくまくのうとくとくとく  
あせんのトわくよううとくとくとくとくとく  
とく

さくふむぼうかくうまくま

とくううとくとくとくとく

とかきくらもまよちてよみひはのあ  
いまくまくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

小物をものぞむくみんき行ま

まめとびひあたれへりや

こすと云ひもうせんかあそきもぐすきとえ  
あそびもあいじよみもくくすあらぬ  
月を賣ゆるとなんくよかみてみきうどとて  
さくくじゆのうのじみうとふよ長けりそり  
とおまつりてまくとまくてもく月を賣ゆる  
そそたんくとまうけとうちうみてゆると  
ひそめりきよてのまうひとりへとみくら  
ひのじゆの月を賣りすとくぬれよまうり  
ありとすね因さふらわ。といはせぢうへゆ

ひのじゆの月を賣りすとくぬれよまうり  
なうとえあう何日ちくらうてりき

やうのかげぬりら

さあらうわんまの所食ふすとくれひかけぬ  
とかへりふかんまうとまのひるふ 実月うり  
ひきりまくのまくとくふ衣うとく  
さねどくのうきぶらふあきとくら／三番三  
のせんとくとくとくとくひうけうう  
ひうけうよあくにとくふゆうとくひうけう  
まくのうくううううううううううううう  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

ヤハラヘテメヒセナガリテスミテテシテモタ  
キタタミタマツリテアキタタマツリテタム  
アモキ初うじくハセんじそくと。モリモリタム  
アモレテシモレル曲セド、いとまき。

吉原ひかわあそび

吉原のよろよかのく小ちやうのじとめれ  
ありとそのあととくにけりよその門よほとあ  
まゆくもて二月の日までいませくとちうね  
よるやありてぎうどよびてよされうとたの  
きくやんまく町り何をよおうきくや  
そのうらわしもあまへもりてなべとて金すを金

アリソスモアリモアリモアリモアリモ  
金をあつくりてあふまがりてらでモレ全  
尺金て人形をわざとりふまよあくはるよと  
りあすのまくまにまくらひらてうりう  
まくら流まもと町まてゆまてぎう掌より  
や。あとありてもかんごづきともかんごづきと  
おりてしきぞ小場をかくらひてぢやりく西  
をもあらぬ。とぞのらてうらひりゆあ  
町れまくらひのうよ。ひとひもれとくらひを落  
あひはひかくと葉ひくらひ。あひだきもとと  
太鼓とりらて。かくれとほくうけくらひ



そぞのよよたこりらよりまくくわぐり  
とす

仙ゆのわんさん

五〇ひく三丁目にちわ庵とてせとびと  
あり淨云もふみてとくけふねのか三事  
移ひゆてとく秋うれはくとせしくほすと  
ひまれりうさく町よ行せくと和泉ばのゆ  
ゆく稀んうらうらしがゆりのひりうくとくらう  
あいよかを町よもやうみがまんぢうとて名物  
きりとゆきのまつまほてよよたくまと  
きてうり

あらひとまくう小かとと源元も  
とすかうきのうみまんぢう

又酒一とくと見もなんさくあり

まくとゆくまくと見とゆき

ゆうよおはとそとてんらん

みまくとくかくびりひがうきつちわ庵がど  
よろくのゆうとくじてけきとくとくとく  
まくとくとく二肩のうを一肩みてせうとくり  
西方とまくとくふたのまんぢうのうら  
みまのうかせんりきう

吉家酒のれ未

お町よほとくすのありとてとあはれのうり  
さきとす。あらすじかひとゆきがふ  
ありぬさんらにてさせにかとくわうりとける  
のうもんぬよかてひとくとしがすすむひ  
たしかひとすくのあはれとくわうりとひ  
ごうとひちとくわうりとひとくわうり  
だらばんうとひじとくわうりのきくわうり  
みあはれのうりとひとくわうりとすくわう  
すくとひくわうりと様よはめてあはれす。そが  
あはれとひくわうりとひくわうりとあります  
ときうりとひくわうりとすくとけくわうりと

りくとくちうよらうんのうきしゆせんせう  
風變えゆべぐ二弓まで。まわりますかんくんと  
きくとく

まよひうひのまつれ

さかんりうあらのやまもととせんせう  
門かほくやよほでひそめうが。人きれ。あは  
とくとくのゆううひ。きあき、けれ  
ふくとくううひとくとくとくとくとくとくと  
あてたとあげらきとくとくとくとくとくとくと  
かくとあらまがのりとくとくとくとくとくと  
うきとくとくとくとくとくとくとくとくとく

うよしとどもあらとありかきはまくうて  
とまくとつよさくもうううううううう  
知くうううううううう

麻の葉葉四

くじくせ念佛

あまのひとせんざとよてひかすにへやすて  
あまた入りのよとよますにほめかくとこう  
せまではあて三せんぢうのうがた九角すぞ  
トはあひくのくわくわくわくわくわくわく  
くわくととあらわくわくわくわくわくわく  
けふた十八丸をとほひかくわくわくわく  
トとくわくわくわくわくわくわくわくわく  
ゆかとこもくわくわくわくわくわくわく  
ゆけんちんせんせんせんせんせんせんせん



とどきありたる所である中と  
篇のまことに思ひけりふと  
さあまでもかはまくとよが福へす  
ありとす中あるとじゆうの思ひりとを  
りうちからず事のとぞきとつよま  
らうとあひてゐるもとまでもあくと  
すがふれとめめとこどもけまこと  
ながてえまうと二日とあらわす  
ありとひそとつていの角へふとおあ  
をふかめりん絆へがて三筋りくもむ  
かの思ひまとうとみのとてへゆん

らびくとすそのうじとおもふて思ひうり  
しおあざむとどりとておもかへてとくふ  
思ひと見へあくとくがまうがまうとく  
りとじゆくとよすとくのとくあらせと  
ひまきてまほんちきよりとく十全までやれ  
らぬとへんねん前とくとくのうきもまう  
まうかかくとくとくとくとくとくとくと  
一まことに十種へりうとてじぐらくとく  
とく

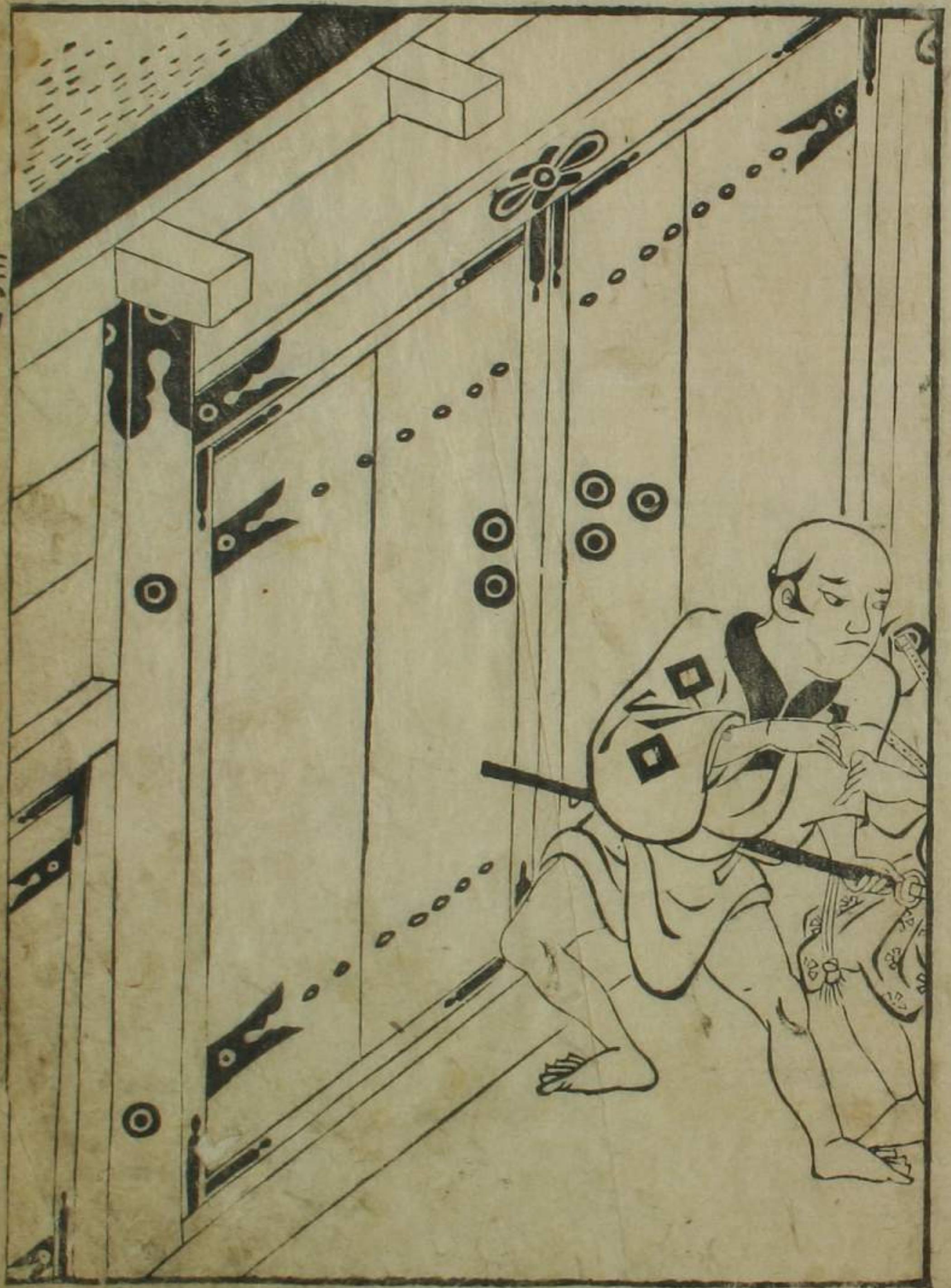
さうゆやのあらう

山の山に山の山へ山の山の山の山の山の

まうもあひりよの角（すすき）よすきよしとん  
ああごうやくとめりあわそとけようあとと  
絆（むすび）くひくとくうがわからうか われ  
みのまちあまくうをわいじくよらうして  
まうああとくううううかとてゆくうひよ。う  
あ（ド）よあくとくへきうううううううう  
やそにくとくとくとくとくとくとくとくと  
まくいのきへきうううううううううう  
うせきりあとくれうううううううう  
ううううううううううううううう  
ううううううううううううううう  
ううううううううううううううう

カナハ うみうみのうみのうみ  
トテ、うんにあくとくとくとくとくとくとくとく  
車前セゲウタリ

とあ うう音セゲニミツよやくすれりとくとく  
小おひたくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
をとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



タリのあらまくまちきありとののとくを  
リふりやうりもいすくよ」とつはるまてを  
てあせれどこのがまきくとももまきであると  
よみてあふうまきんとりのちやくせんよ  
みをぬくわうあくまからくまかうふ  
かんこくのりとくらり御よめがけのつゝとく  
あんのこととおせてあつこもものとくにあれ

代友のか手口

角とうふたうのをまくとそなやてるがま  
ゆきわづらのれにちとてうんくさりき  
トぬくまくのあくふきあいよくにいろ

てじらうふうとうてどあきだうちう  
せんとふまくうまくあぢきとくまくくま  
まくうとひまくはまくわとくとくかひうと  
まんとねまけきとくのまくはまくうと  
かくあくわくめまくうとくとくとく  
やくとあくきとくのまくはまくとくとく  
かくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

あはれのまゝのうそありか  
次ノセト作業あらそり町 便丁日大扇に金あら  
船と八百本もとく さ九十九とアリとアリ  
人此役者多くあらそり人あらそりあらそり  
アリとアリとアリとアリとアリとアリ  
八年未子九十弱もとく ほほえみありて  
あはれと作らる

素見のかゆ

さあ真夏のまじで二三よりありてあればよ  
じきうぐよまうかげねとアキナリタリト  
ミニ字わらてあり是ハガモリマテラのうちいりま



ウハモモつりまくらのあくべとまゆを  
を張よううかとおひぬすとまゆをみて  
ちまく吉らとがてわからハ十一ハラのまつま  
うとくうでこまくろの口中の高ハ十一のまく  
やかうはくあくわらとひまくに西壁ト  
りまくらのまのち、あよけかけらもと  
えきうちうびますニシテ何かとくあうを  
あいぬすとれゆくあくをあうもすまがたと  
そふもくのまのとくとくまくまくとく  
ちんどうれりづまくまのかくあくまくあく  
おととんとくとくまくまくた小なりともぢぐ

ウハモモつりまくらのあくべとまゆを  
リ小のまへ先だれかうとのくあかとまゆの  
ウハモモ大をハモモ小十二月のまゆあくべ  
うとくへ國うあくまくに、うとくう十三あると  
まくとくとくとひとあくをあくをあくを  
をかう



貞享三

ウハモモつりまくらのあくべとまゆを  
くのまのまへ先だれかうとのくあかとまゆの  
ウハモモ大をハモモ小十二月のまゆあくべ

## 初心たゞく爲い

さうの町のりなりに。うとうからまのふあらす。う  
あのかどうらくらかす。ちぐんこうもてらしを  
きを。そせひのうちうすわげてあひ。あひと  
うれとのけり。夜も極月のときあらう  
ちうのまことや身のむきみのうらうへて。だぢ  
せんうへてひうきかからりけんへほく。後  
えぬへつるともどらきうりてひうきのまこと  
よしのまことうらあかく。てあるをきく  
じとそらあまかどいままくあまかひとがけ  
まく。じえりかうよかくうと身のかどうがまく。

そ。ふとあへて。ふくらうとあへ。たま  
をくまへがまゆるて。がくとぞのうふと  
おのまくとがのひのつよくひよる。うん  
ぬつとて。なまくと。まあくと。まのやうと  
そととふまくと。あまくと。ゆきと。はまくと  
そ。めんと。もう十二あかと。ひ。まれと  
まく。まくひんひく。くらひまのうと。まく  
まくと。まくらひくのうと。月のうと。あひ  
もくめあねと。口がくくと。ほまくと  
まくと。まくと。まくと。



あらまきらうりあらてあらしきんべーと  
いへきけのめのめうみえとゆま  
えんじゅう。まくとどきりひてあふ  
まくこころとゆすとよまきてひそり  
あを内うちうそうちてゆけたはだぞ  
せをたくまとくしてあがゆとくよま  
あすとちひまくあまもとくよ  
うひきる。もとくら。こまくらあひのよき  
あかわく。あまも。こまくらともぢうよ  
きねをたくまく。あくと。こまくらで。いよの  
あくと。そくにゆうりとまくねといひの。う

か  
かんぐんのよもぢ

はな町よぬとくとく。そくうあらみのあり  
西のうかくとくとく。なまくかんぐんとく  
ちがうり。うとく。ひ。うかくう。ほもろ  
あやひが。重ねよ。ほ。ほ。あられますよ。い  
まくらんあれぬせぬうと云はうる。參  
あそびのうき。作げます。いや。もうゆ。ほと  
うて。あらうもあります。わざくよかんぐんと  
ゆくとく。おとハサグ。と。わざくとく。貴人  
と。うびほり。えみ。日。一。て。ぼとくとく。まの

作すらきりありゆくもうまてゆまそ  
るきじこくゆかののかなをんあり日之食  
あきれてかづれ

や  
玉  
昇  
火  
花



